

「つくる会」系歴史教科書・公民教科書の採択を許さない決議

本年3月末、新しい歴史教科書をつくる会（「つくる会」、自由社）と「つくる会」から分裂した教科書改善の会（「改善の会」、育鵬社）の中学校歴史教科書・公民教科書（以下、あわせて「つくる会」系歴史教科書・公民教科書）が、教科書検定を通過した。それぞれ2種類の歴史・公民教科書は、8月までに全国の教科書採択地区において採択に付されることになる。

「つくる会」系歴史教科書は、日清・日露戦争以降の日本の戦争を美化・正当化し、アジア・太平洋戦争を「大東亜戦争」と呼び、日本の防衛戦争・アジアを解放するための戦争と評価する。また、韓国併合や朝鮮の三・一独立運動の弾圧を正当化し、日中戦争の原因を中国の反日運動として日本人保護のためにやむを得なかった戦争とする。更に、沖縄戦での集団自決を住民自らの選択でとして日本軍の責任を認めない。いずれも侵略や戦争の歴史を偽るものである。

「つくる会」系公民教科書は、領土問題、北朝鮮による拉致問題などを過度に強調するとともに、天皇を中心とする日本の「伝統」を情緒的に強調することで愛国心を求め、国民が「一体」となることの必要性を説く。そして、自衛隊の役割、特にアフガン戦争やイラク戦争への派兵を積極的に評価して日本の「軍隊」の強大さを讃え、平和主義を軽視する。更に、基本的人権の豊かな内容よりも公共の福祉と国民の義務を強調して、国民主権・民主主義を軽視する。つまり、日本国憲法の三大原則である、基本的人権の尊重・国民主権・平和主義に全く価値を見出さず、9条を含む改憲への道を示唆する。

このような歴史を偽り、日本国憲法の基本原則を無視し改憲をすすめる危険な本質は、「つくる会」が分裂しても、なんらかわっていない。

子どもらが、人権と民主主義の担い手として成長することを願い、この国の未来やアジアと世界の平和を考えれば、「つくる会」系教科書は絶対に子どもたちに渡すことはできない。

2001年4月に登場して以来、「つくる会」教科書は、2005年、2009年と各地域での採択に付されてきた。「つくる会」は他の教科書を「自虐史観教科書」と攻撃して激しい採択運動を展開したが、国民の批判の前にほんのわずかしこ採択されなかった。「つくる会」教科書の採択を許さなかったのは、採択関係者、教職員、市民・父母の良識であった。

自由法曹団は、このような「つくる会」教科書を採択させてこなかった経験を受け継いで、2011年も「つくる会」系教科書を採択させないために、広範な人々と手を結び、全力を挙げて奮闘することを決意するものである。

2011年5月23日

自由法曹団2011年5月研究討論集会